

長野市民病院

ミッショ：医療を通して長野市民・地域社会に貢献する

長野市民病院
理事長・病院長 池田 宇一

ごあいさつ

長野市民病院
Nagano Municipal Hospital

ふれ愛

公衆衛生だより
No.43
平成29年5月1日
発行
地方独立行政法人
長野市民病院
TEL 026-295-1199

平素より、長野市民病院に対するご支援に感謝申し上げます。

本院は、開院以来提供してきた良質で安全な医療を継続・発展させて提供していくために、昨年4月、病院経営の自由度をさらに高め、患者さんの立場に立ったより良い病院づくりができる地方独立行政法人へ移行しました。

本院のミッション（使命）は、「医療を通して市民・地域社会に貢献することです。高度で専門的な「がん診療」、断らない「救急医療」に加え、超高齢時代の「脳・心臓・血管診療」を充実させていくと共に、市民の皆さまのニーズに応えるため予防医療や在宅支援にも力を入れていきます。

「がん診療」は、4月に「がん治療センター」を「がんセンター」に改称し、地域がん診療連携拠点病院として、がんの診断・治療のみならず、予防や研究活動にも力を入れています。1月には肝臓・胆のう・膵臓外科、4月には頭頸部外科を新設しました。

「救急医療」は、初期救急診療に対応する「長野市民病院・医師会急病センター」と重症患者・救急車に対応する「救急センター」を設置しています。

市民の皆さまの健康増進も本院の重要な役目であり、昨年から隔週で土曜

昨年、救急専用病床（ECU）を10床開設し、引き続き24時間365日、市民の皆さまが安心して暮らせるための医療を提供していきます。

「脳・心臓・血管診療」は、昨年に「心臓血管センター」と「糖尿病・腎センター」を開設し、不整脈のカテーテル治療や最新CT装置導入による血管診療を強化しました。4月には心臓血管外科を新設し、心臓病の外科手術も開始します。「脳卒中センター」は、北信地域で唯一の脳卒中ケアユニット（SCU）を有し、引き続き24時間体制で診療にあたっています。

市民の皆さまの健康増進も本院の重

日ドックを開始し、健診枠を拡大しました。また超高齢社会の進行に合わせ、地域包括ケア病棟と訪問看護ステーションが一体化した地域包括ケアセンターを開設し、入院中から、病院のスタッフと在宅医療に関わるスタッフが緊密に連絡を取り合い、患者さんが退院後も安心して療養できる環境を整えていきます。

これからも、地域の保健・医療・福祉の充実に貢献していきますので、市民の皆さまの「病院」である長野市民病院へのご支援をよろしくお願ひいたし

第11回 病院祭 長野市民病院

ふれ愛デー

2017 6/10(土) 9:30~15:00

場所 長野市民病院 申込等は不要です。
ご自由にお越しください。

特別講演会 *対象：小学生以上
シンクロナイズドスイミング
リオ五輪代表 箱山 愛香さん 講演会
14:00~15:00(体育館)

入場無料

第30回市民健康講座
テーマ「脳卒中」 10:30~11:30(会議室4・5・6)
第1部 講師：長野市民病院 脳卒中センター長 草野 義和
第2部 講師：長野市民病院 リハビリテーション科 作業療法士 丸山 真寛
長野市民病院 栄養科 管理栄養士 春原 ゆかり

- 骨密度測定
- 脂肪肝チェック
- 施設見学ツアー
- がん・すまいるのサロン
- セラピードッグとのふれあい体験
- ふあふあ、ミニSL
- 各種お食事、軽食コーナーほか その他にも楽しいイベントや各種体験が盛りだくさん!!

※詳細は後日HPやパンフレットで公開します。

(お問い合わせ) 長野市民病院 企画財務課 TEL 026-295-1199代

図1 コイル塞栓術イメージ



コイルはプラチナ製の細い糸でできており、脳動脈瘤内で糸を巻くようにして丸めながら詰めていきます。

知っておきたい ミニ知識

長野市民病院
脳卒中センターセンター長
脳血管内治療科部長
くさの よしかず
草野 義和



◆新しい脳動脈瘤治療

カテーテルや内視鏡などを使って体にできるだけ傷を付けずに治療を行う「低侵襲治療」が多く分野で注目されていますが、脳卒中でも低侵襲治療が行われています。その一つが脳動脈瘤に対しカテーテルを使って止めるコイル塞栓術です。破裂するととも膜下出血を引き起こす脳動脈瘤ですが、最近では脳ドックや頭痛外来などで無症状のうちに見つかる機会が多くなっています。これまで頭の皮膚や頭蓋骨を切開し、脳動脈瘤にクリップを掛け止める「クリッピング術」が主流でしたが、脳の痛みや皮膚の違和感、頭蓋骨の

変形は避けられず、体への負担は少なくありませんでした。それに対して最近ではカテーテルを使つて治す「コイル塞栓術」が、「切らずに治す治療」として注目されています。

◆少ない体への負担

足や手首の動脈から太さ3mm程度のカテーテルといわれる細い管を動脈内に通して、レントゲンを見ながら脳血管まで進めます。そこから先は先端の太さが1mmほどの中マイクロカテーテルを脳動脈瘤の中に進めます。マイクロカテーテルを通してコイルというプラチナでできた糸を脳動脈瘤の中にゆっくりと入れていきます。2本、3本とコイルを加えることで糸くずのようなコイルの塊ができると、脳動脈瘤の中に血液が入らなくなり、破裂の危険がなくなるのです。(図1・2)

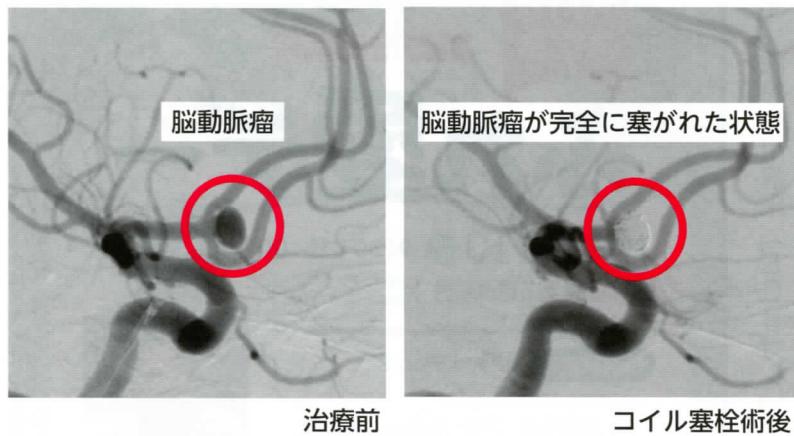
以前は脳動脈瘤の入り口が広い動脈瘤では、コイルが不安定となり治療しづらかったのですが、最近ではステントという金属の筒を

脳動脈瘤の入り口に置くことで、様々な形の動脈瘤が治療できるようになっています。体に切開を加えないため、治療当日から食事をしたり、歩いたりすることができます。治療後3~4日で退院できます。

◆まだまだ知られていない

新しい治療ですので再発や長期的な安全性が心配になるかもしれません

図2 コイル塞栓術前後のレントゲン画像



TOPICS

下肢静脈瘤に対するレーザー治療を開始します



当院は4月に信州大学より中原孝医師を迎えて、心臓血管外科を開設しました。中原医師は下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の指導医であり、当院でも下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術を開始します。

中原孝医師は、足の静脈が太く浮き出たり、こぶのように膨らんだりする疾患です。足の太るさやむくみなどの症状を引き起こし、QOL（生活の質）を低下させることもあります。

治療法は、弾性ストッキング等を着用する圧迫療法の他、外科治療の一つにレーザー焼灼術があります。血管内にカテーテルを通し、内側からレーザーを照射し病変部を焼灼します。切開をしないため、身体に負担の少ない治療法として注目されています。

中原孝医師を迎え、心臓血管外科を開設しました。中原医師は下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の指導医であり、当院でも下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術を開始します。